

第 62 回 渋谷駅周辺地域の整備に関する調整協議会

次 第

1 議 事

- (1) 広場ビジョンについて
- (2) 渋谷駅中心地区まちづくり指針 2010 の改定について
- (3) その他

開催日時：令和 7 年 11 月 25 日（火）

14：00～15：30

開催場所：TKP ガーデンシティ渋谷 ホール A

<配布資料>

- 次第
- 委員名簿
- 座席表
- 第 61 回 渋谷駅周辺地域の整備に関する調整協議会 議事録
- 渋谷駅中心地区広場ビジョン（案）について資料 1
- 渋谷駅中心地区広場ビジョン（案）資料 1（参考資料）
- （仮称）渋谷駅中心地区まちづくり指針 2027 骨子資料 2
- まちづくり指針改定のスケジュール資料 2（参考資料）
- まちづくり指針改定に関するアンケート

渋谷駅中心地区広場ビジョン（案）について

1 これまでの経緯

令和 7 年 3 月 25 日に開催した渋谷駅中心地区まちづくり調整会議において区に原案の提出があり、令和 7 年 6 月 20 日に開催した渋谷駅周辺地域の整備に関する調整協議会で報告を行った。その後、原案をふまえ区で渋谷駅中心地区広場ビジョン（案）を作成し、令和 7 年 9 月 16 日から 2 週間パブリック・コメントを実施した。

2 パブリック・コメント実施結果について

- (1) 実施期間 ： 令和 7 年 9 月 16 日(火)～30 日(火)
- (2) 実施方法 ： 区 HP に公表のうえ、区ニュース、区 LINE でも発信。
案の閲覧は、区役所本庁舎 6 階区政資料コーナー、9 階経営企画課、12 階渋谷駅中心五街区課で実施。
- (3) 意見書の提出： 9 月 30 日(火)までにはがき、便箋などで郵送・持参
メール、ファックス、区 LINE も可
- (4) 意見の件数 ： 25 件・提出人数 7 人（メール 3 人、区 LINE 4 人）

3 今後の予定

令和 7 年 12 月中旬 意見に対する区の考えと広場ビジョンの策定・公表（区 HP）予定

2025年 〇月

渋谷区

渋谷区

渋谷 × 広場

そこで人は、スクランブルる。

そこで、まちへ繰り出す人が待合せをします。

そこで、働く人がランチを食べたり 読書をしたり。

そこで、訪れた人が流れる音楽に耳を傾けたり 隣の人と一緒に盛り上がったり。

アイデアを発信したり、友達が増えたり。

渋谷の広場で、渋谷のまちを彩るすべてが重なり交じり、
そこで人は、スクランブルる。

目次

① 背景・目的	1
② 本ビジョンの位置づけ・主な内容・対象	3
③ 渋谷の広場を取り巻く環境	7
④ 渋谷駅中心地区の広場ビジョン（将来像）	11
⑤ 広場が担う機能・管理運営の考え方	13
⑥ 広場ビジョンの実現に向けて	19
〈参考〉対象とする広場空間	26

「渋谷駅中心地区広場ビジョン」（以下、「本ビジョン」という。）は、「渋谷駅中心地区まちづくり指針 2010」「渋谷駅中心地区基盤整備方針」「渋谷駅地区地区計画」等の計画に基づいて整備される広場空間の管理・運営について基本的な方針を定めるものです。本ビジョンの原案は、令和5年度から2年間、渋谷駅中心地区まちづくり調整部会（委員長・岸井隆幸／日本大学名誉教授）において、インターネットによる一般の広場利用者等へのアンケート調査、広場運営者やイベント事業者等へのヒアリング、地元町会や商店会の意見聴取を踏まえて検討の上まとめられ、令和7年3月に本区に提案されました。

本区では、この提案を受け、本ビジョンの案を作成し、パブリックコメントの実施を経て公表することとしました。

1 背景・目的

渋谷駅中心地区の都市空間は、都市施設である駅前広場を中心に、上位計画の考え方を踏まえながら具体的な内容が検討され、計画されてきました。東西駅前広場が計画決定された2009年から15年が経過し、工事の進捗により渋谷駅周辺の将来像が徐々に見えるようになり、また、駅直近における民間の大規模開発と併せて、民地内の公開空地等や、道路上空占用等の方法による歩行者空間も創出されてきました。さらに、渋谷駅中心地区周辺においても、新たな都市開発の計画・整備が進められています。

これまでの駅前広場(都市施設)は、バス・タクシー及び一般車等の自動車交通処理機能の観点に重きを置き、規模や配置について計画されてきました。

渋谷駅中心地区のまちづくりが進捗する今、近年の『人間中心の都市空間』といった潮流にも後押しされ、交通処理のための機能にとどまらず、待合せや憩い、何かを発信する等、多くの人々が日常的に訪れる渋谷ならではの『多様な広場空間の使い方』の視点に立ち、まちにプラスアルファの価値をもたらす『都市空間(特に、広場空間)』への期待が高まっています。

また、「令和6年 国・地域別外国人旅行者行動特性調査報告書/東京都」によると、2024年の調査で訪都外国人の訪問先で最も多かったのは「渋谷」(62.6%)で、インバウンド・観光対応の必要性も高まっています。

さらに、当地域における大規模な地震等が発生した場合に備え、改めて防災性の向上に資する広場空間の果たすべき役割が期待されています。

これらの背景より、道路である駅前広場等に加えて、民地内の公開空地等も対象に、官・民の枠にとらわれず、人々が様々な目的で、安全、快適に使い、災害にも備えられることができるような広場空間が必要と考えます。

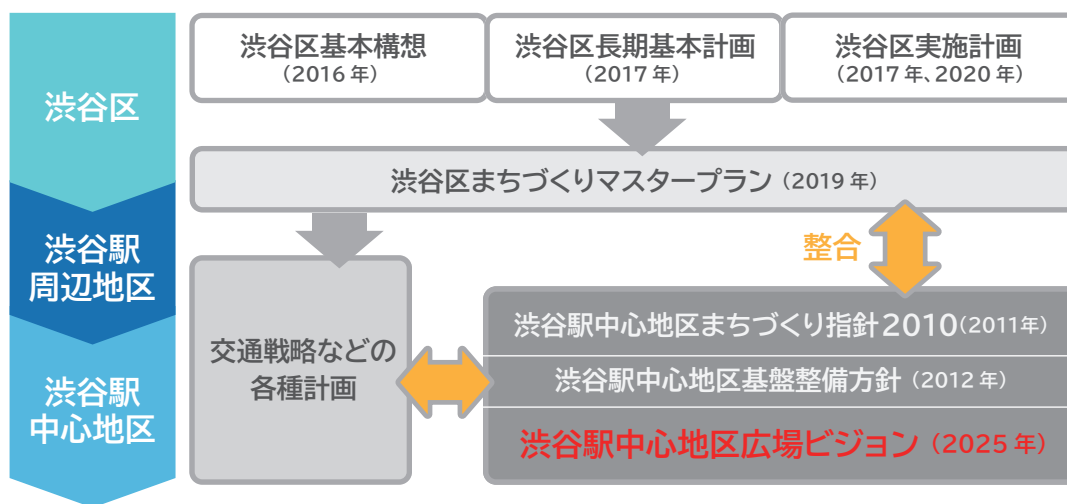
本ビジョンは、渋谷駅中心地区ならではの広場空間に求められる機能に着目し、「広場空間のあるべき将来像とその実現に向けた考え方」を示し、よりよい広場整備や管理運営の実現を目指すものです。

渋谷区

② 本ビジョンの位置づけ・主要内容・対象

2.1 位置づけ

本ビジョンは、これまで渋谷駅中心地区まちづくり指針2010(2011年)や渋谷駅中心地区基盤整備方針(2012年)において示された「広場等に関する将来像」を踏まえつつ、今後の広場整備や管理運営方法などを検討する上での計画指針として位置づけるものです。



▲ 渋谷駅中心地区広場ビジョンの位置づけ

2.2 主な内容

本ビジョンでは、これまでの関連する計画や最近の社会情勢等を踏まえ、渋谷駅中心地区ならではの「広場空間の将来像」「機能・管理運営」「将来像の実現に向けた方策」などの考え方を示します。

本ビジョンの主な内容は、以下のとおりです。

- 渋谷駅中心地区における広場空間の使い方と駅周辺全体を俯瞰した広場空間のより良いあり方
- 各方面の特性を踏まえた、広場空間に求められる機能や整備のあり方、配置、管理運営に関わるルール等を決めていく上での考え方
- 広場空間の将来像の実現に向けた方策の考え方 等

2.3 対象

本ビジョンの対象とするエリアおよび対象とする広場空間は以下のとおりです。

(1) 対象エリア

本ビジョンの対象エリアは、右図に示す渋谷駅中心地区とします。

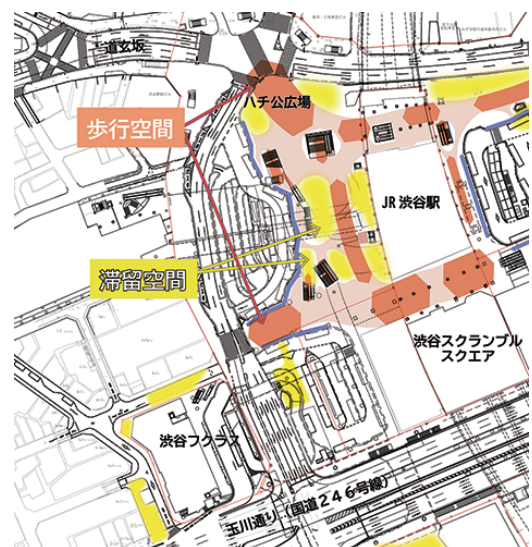
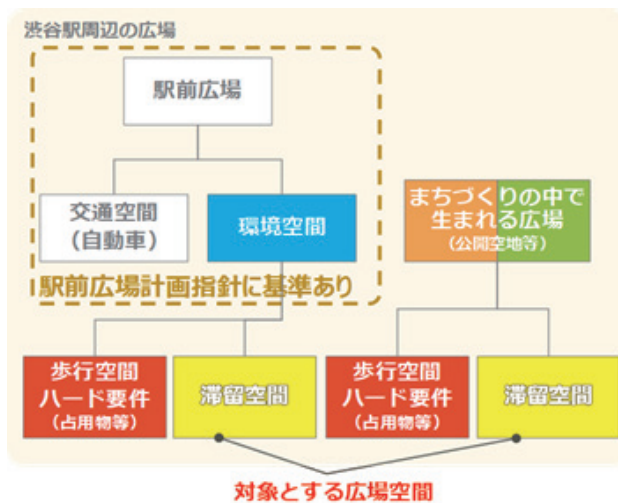
まずは渋谷駅直近の開発街区における広場空間についてあり方を示し、周辺のまちの状況をみながら渋谷駅中心地区全体にその考えを広げていきます。



▲ 渋谷駅中心地区広場ビジョンの対象範囲

(2) 対象とする広場空間の考え方

本ビジョンでは、駅前広場のうち交通空間(自動車)を除く部分(環境空間)と、公開空地等の公共的広場から、歩行に必要な空間(歩行空間)と大規模な占用物などのハード施設を除く部分(滞留空間)を『渋谷ならではの』を生み出す空間と捉えて、本ビジョンの対象とする広場空間と考えます。



※駅前広場計画指針[建設省(現国土交通省)都市局都市交通調査室監修/1998年発行]:駅前広場の基本理念から機能・面積配分・配置計画までの考え方、ならびに検討手順、現況等の分析方法、面積算定の手法、計画上の留意点等を取りまとめたもの。

① 背景・目的

② 本ビジョンの位置づけ・主要内容・対象

③ 渋谷の広場を取り巻く環境

④ 渋谷駅中心地区の広場ビジョン(将来像)

⑤ 広場が担う機能・管理運営の考え方

⑥ 広場ビジョンの実現に向けて

(3) 対象とする広場空間

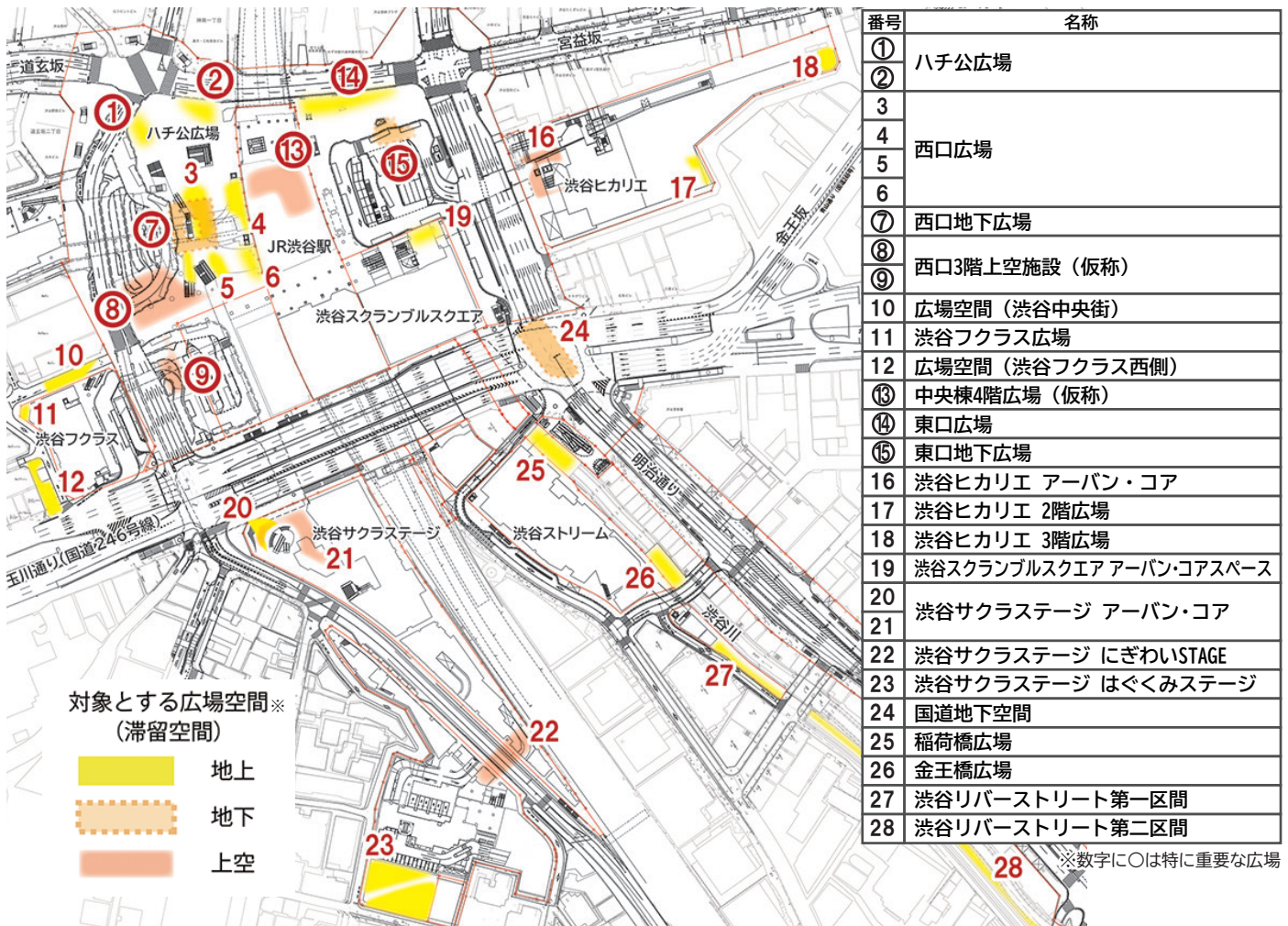
本ビジョンにおいて対象とする広場空間は、下図のようになります。

対象とする広場は、既に供用されている「既存の広場」、「今後新たに整備される広場」に加えて、既存の広場のうち「今後改良・再整備される広場」も含むものとします。

これら広場空間については、まちづくりの基本となる地区計画において、歩行者ネットワークの強化と併せて、多様な人々が活動し、安全・安心・快適で、人々が憩い、たまり、交流できる空間として整備されることにより、安全安心なまちの実現を目指すことが示されています。

さらに、西口広場※のうちハチ公像周辺の広場空間(以下「ハチ公広場」と言う)・東口広場(地上・地下)・中央棟4階広場(仮称)・西口3階上空施設(仮称)・西口地下広場は、渋谷のまちにとって駅に直結する渋谷の玄関口として「特に重要な広場」であり、地区計画等々に示されている役割を担い、区・事業者・地元・学識をはじめとする関係者で様々な角度から、計画・設計を進めるとともに、適正な管理運営がなされることが必要となります。

※西口広場：ハチ公像付近を含めた西口広場空間全体を指す。



③ 渋谷の広場を取り巻く環境

3.1 渋谷区のまちづくりの考え方（関連する計画）

渋谷区の計画では、これまでも広場に関する考え方や方針が示されてきました。また、渋谷駅周辺の現況、土地利用、現在の広場の使われ方から、渋谷の広場空間の特性を読み取ることができます。

（１） 渋谷区まちづくりマスタープラン（２０１９年１２月策定）

「渋谷区におけるまちづくりの基本方針」として、「区、区民及び企業等が、相互に連携・協力して進める協働型のまちづくり」の参考書の性格を持つものです。渋谷区が目指す将来像として「人々がいきいきと過ごせるパブリックスペースの創出」や、まちづくりのアプローチとして「公共空間を文化の発信の場として活用」など、広場空間を含めたパブリックスペースの考え方が掲げられています。

渋谷区が目指す 将来像	A 多様なライフスタイルを実現する生活環境の創出	C 環境問題や災害リスクに対応するみどりや仕組みの構築
	B 人々がいきいきと過ごせるパブリックスペース の創出	D 多様な文化や新しいビジネスを生み育てる舞台づくり

※パブリックスペース：渋谷区では、公園、街路などの公共空間のみならず、民地の公開空地などもパブリックスペースととらえ、パブリックスペースの拡充、質的な向上を図るとともに、地域の活性化、コミュニティの醸成、マネジメント、安全で安心で快適なまちづくりにつながる多様な活動を展開できる「場」としての利活用を推進する。

（２） 渋谷駅中心地区まちづくり指針２０１０（２０１１年３月策定）

渋谷の文化のDNAが息づいた都市再生を実現し、国際的な観光文化都市となることを目指し、住民、企業及び行政が連携しとりまとめられました。

策定にあたっての考え方として、JR線と国道246号により区切られたエリアの特色を活かすとともに、まちへ人を送り出し、回遊させ、受け入れる駅・基盤・開発の一体整備が掲げられています。特に、渋谷駅中心地区は、各エリアをつなぎ「回遊性のある渋谷の玄関口にふさわしいエリア」とされています。

さらに、将来像を実現する7つの戦略から、広場空間に求められる機能を読み取ることができます。

将来像	世界に開かれた生活文化の発信拠点 “渋谷”のリーディングコア 広場・坂・路面店を活かした、 めぐり歩ける、環境と共生するまちを目指して
戦略1	渋谷を発信する “生活文化”の創造・発信拠点の形成
戦略2	谷を冷やす 緑・水を活かした谷空間の環境づくり
戦略3	都市回廊を創出する 元気な若者に限らず、だれもがめぐり歩いて 楽しいまちの実現
戦略4	人間中心のまちをつくる 交通結節機能の再編・強化等による 快適な歩行環境の形成
戦略5	安全安心なまちをつくる 街区再編や拠点開発による、災害に強く 犯罪の少ない安全安心なまちの実現
戦略6	渋谷らしさを強化する 広場・坂・路面店を活かした “渋谷らしさ”をもった景観形成
戦略7	みんなで育てるまちづくり 協働型まちづくりによる渋谷の将来像の具現化

▲将来像と7つの戦略

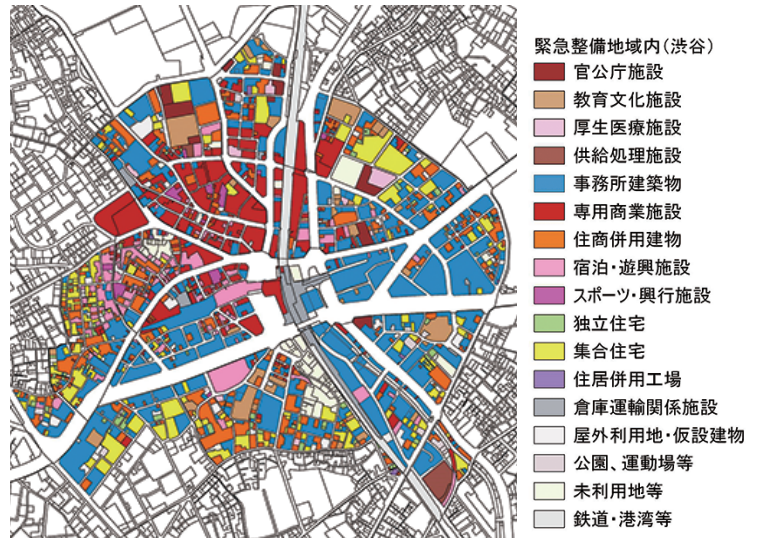
3.2 対象エリア周辺の特徴

渋谷駅周辺は駅前のまちの広がりコンパクトであり、連日来街者でにぎわう商業エリアと落ち着いた住宅エリア、オフィスエリアが近接していることが特徴です。

(1) 土地利用

渋谷は、渋谷川により形成された谷地形と、その地形の中に織りなす通りがY字に分岐するなど、地形が特徴的です。

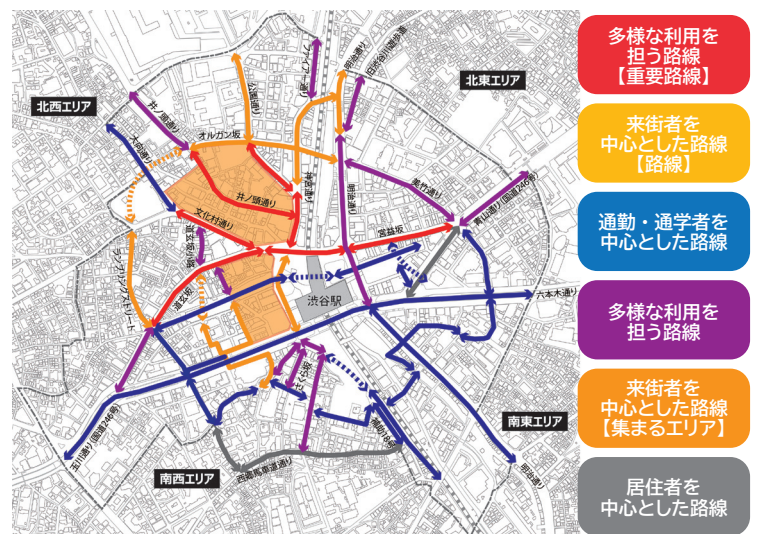
渋谷駅周辺の土地利用現況は、国道246号とJR線によって分けられる4方面で特色が異なることが読み取れます。土地利用の違いから、広場の利用者の動向にも違いが生まれることが想像できます。



(2) 路線の特性

「渋谷駅周辺地域交通戦略」において、沿道土地利用や利用者特性の分類を元に渋谷駅周辺地域の各路線は下図のとおり分類されています。

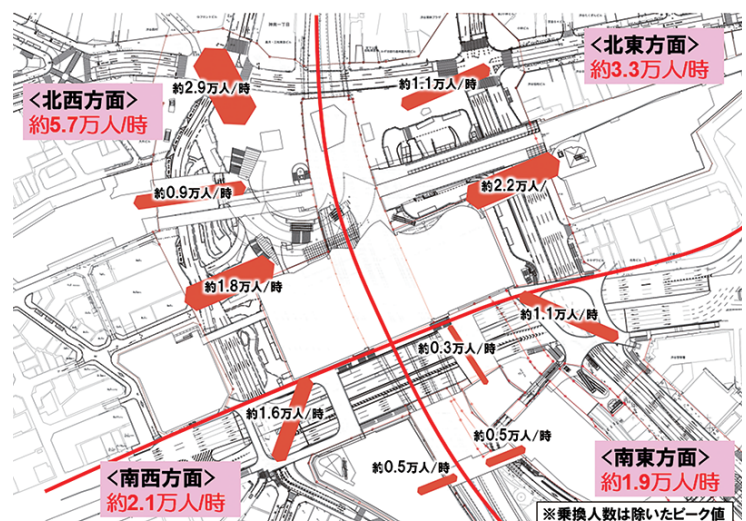
渋谷の通りは、それぞれが特徴的であり、道路内歩道でも通行だけでなく滞留できる機能が確保されている箇所もあり、その通りに面する広場空間の計画に大きく関わります。



(3) 将来の歩行者交通量

現況交通量と開発計画から、将来の歩行者交通量を予測すると、北西方面の歩行者交通量が他方面に比べ圧倒的に多いことがわかります。また、南北でみると北側の歩行者交通量は南側の2倍以上であり、方面によって歩行者交通量が大きく異なっています。

また、交通量だけでなく、インバウンドの影響や通勤・通学、住民といった歩行者の属性も広場空間の計画に大きく関わります。



① 背景・目的

② 本ビジョンの位置づけ・主な内容・対象

③ 渋谷の広場を取り巻く環境

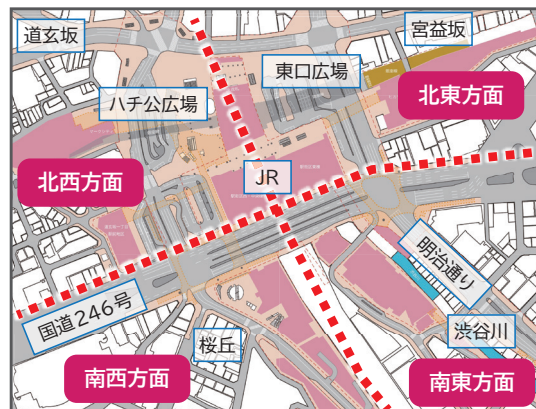
④ 渋谷駅中心地区の広場ビジョン(将来像)

⑤ 広場が担う機能・管理運営の考え方

⑥ 広場ビジョンの表現に向けて

3.3 対象エリア周辺の特性のまとめ

3.1及び3.2から、対象エリア周辺の特性と広場に求められる意見や改善課題等を整理します。



	方面の特性	主な意見など※
北西方面	歩行者交通量：約5.7万人/時 ●このエリアで最も商業が集積し、地下にも商業施設がある ●商業の集積により来街者が多く、全体の交通量も平休日問わず多いことが特徴	●渋谷の顔であり、待合せ利用が多く、待合せしやすい場所、目印、座れる場所、サイン、Wi-Fiや緑を求める人も多い ●歩きにくさや汚れ、混雑、騒々しさ、治安の悪さ等を感じる人が多い ●ルールを作ること、地元主導でより安全にイベント等に活用できるようにし、不適切な使い方を少なくして欲しい
北東方面	歩行者交通量：約3.3万人/時 ●北西方面に次いで交通量が多く、商業・業務・学校が混在し、来街者の特性が多岐にわたる ●渋谷ヒカリエ3階広場では、植栽帯(ベンチにも利用)やキッチンカー、サインなどが配置 ●東口地下広場は、エリアマネジメントによる管理運営	●まちの回遊を支える広場が欲しい ●スカイウェイ開通に向けた、渋谷駅中心地区および宮益坂地区に向かう「まちの玄関口」としての賑わい創出を目指す
南西方面	歩行者交通量：約2.1万人/時 ●住宅地が広がり、居住関連交通が多い ●幹線道路沿道にはオフィスが多く立地し、通勤利用が多い ●歩行者空間のあり方を、地元でも検討	●巡り歩いてまちを楽しんでほしい ●周辺に広がる住宅地との接点となる広場として利活用したい
南東方面	歩行者交通量：約1.9万人/時 ●幹線道路沿道にオフィスが集積し、通勤利用が多く、住宅地も広がり、居住関連交通も多い ●水や緑の自然資源の分布が特徴的 ●渋谷川上部の広場は、民間による管理運営	●地域コミュニティ醸成の場を目指す ●緑豊かな環境へ惹き込みたい ●渋谷川上部の稲荷橋広場・金王橋広場は、継続的な賑わい創出と、地域コミュニティ醸成の場となることを目指す
全体(管理・運営側)	○歩行者量に対して広場が狭く安全面が課題 ○防災面で一時的に人が滞在できる空間が不足 ○治安の悪さ、混雑や歩きにくさに対して、安全な広場にするための警察との連携が必要	○公共性の高い利用方法、周辺のまちとの協調、ルールに基づき広場を適正に使う人が増えて欲しい ○インバウンド増に対応した観光的な視点が必要である ○多様な広場や活動の緩やかな相互連携を目指す ○広場の使用、安全関係等に関する情報の共有化・可視化が必要である ○防災に備えた広場の役割が重要である

※渋谷駅周辺地域の整備に関する調整協議会等における地元からの意見、広場運営者・イベント企画者へのヒアリング・アンケート、来街者向けWebアンケート

④ 渋谷駅中心地区の広場ビジョン (将来像)

④ 渋谷駅中心地区の広場ビジョン（将来像）

① 背景・目的

前章で整理した渋谷駅中心地区の位置づけや特性より、毎日たくさんの人が行き交い、多様性や寛容性を大切にしている渋谷駅中心地区における広場空間のあるべき将来像と、将来像実現に向けて広場空間に求められる5つの機能を以下に示します。

渋谷駅中心地区の広場空間に求められる機能は、各機能に一般的に必要な役割に加えて、インバウンド増に伴う観光的な機能も踏まえ、渋谷ならではの地形や文化、まちづくりなどから生まれてきた役割を担うものと考えます。

（１） 将来像


そこで人は、スクランブルする。

そこで、まちへ繰り出す人が待合せをします。

そこで、働く人がランチを食べたり 読書をしたり。

そこで、訪れた人が流れる音楽に耳を傾けたり 隣の人と一緒に盛り上がったたり。

アイデアを発信したり、友達が増えたり。

渋谷の広場で、渋谷のまちを彩るすべてが重なり交じり、

そこで人は、スクランブルする。

（２） 将来像実現のために必要な広場の機能

機能	一般的な役割	渋谷ならではの追加すべき役割
ゲート (待合せ)	・駅とまちの間にある ・目印がある	・交通量が多い中で、安全に待合せができる
憩い・潤い・ リラックス	・静かで落ち着く ・開放的でゆったり過ごせる ・腰かける程度の休憩ができる	・人の量や多様性があり周囲が気にならない ・都心の中での自分だけの居場所となる
交流・ にぎわい	・イベントができる ・人を集めるための仕掛けがある (にぎわい創出イベント)	・まちの中で個性豊かで多様な活動ができる ・人が多いからこそできる、発信力を生かした 仕掛けがある(広告・PRイベントなど)
情報発信	・来街者向けの観光案内など「情報 をキャッチできる機能」	・来街者やインバウンドがまちを発信したり、個性 を発信することでトレンド・文化をつくり出す 「情報を世界に発信できる機能」
防災 (非常時)	・一時待避場所 ・災害情報の発信	・駅から離れる方向への避難を誘導する機能 ・災害時に利用できる非常用照明・電源、防災 無線、Wi-Fi、情報発信サイネージ等

② 本ビジョンの位置づけ・
主な内容・対象

③ 渋谷の広場を取り巻く
環境

④ 渋谷駅中心地区の
広場ビジョン(将来像)

⑤ 広場が担う機能・
管理運営の考え方

⑥ 広場ビジョンの実現に
向けて

⑤ 広場が担う機能・管理運営の考え方

5.1 広場の有する機能の考え方

前章に示した将来像と求められる機能について、各機能の具体的な考え方を整理します。

(1) ゲート（待合せ）

渋谷駅は1日に約330万人〔渋谷駅周辺地域交通戦略/令和2年より〕もの人が利用する巨大ターミナル駅です。駅周辺のまちへ多くの人が移動するため、特に駅とまちをつなぐ広場には安全に待合せができるゲート機能がとても重要です。

考え方のポイント

- ◆ 待合せのための確保すべき空間は、将来の歩行者交通量に比例します。
- ◆ 駅の出入口を踏まえ、歩行者動線に近接して配置することが重要です。
- ◆ 空間確保と併せて、待合せに対応した設えが必要となります。

(2) 憩い・潤い・リラックス

渋谷駅周辺は駅前の広がりコンパクトであり、連日来街者でにぎわう商業エリアと落ち着いた住宅エリア、オフィスエリアが近接していることが特徴です。

憩い・潤い・リラックス機能は人の居場所となる重要な機能であり、まちを巡り歩く来街者がちょっと腰かけて休憩できる場所から、住民同士のコミュニティを育む場所まで、求められる機能は多岐にわたります。

考え方のポイント

- ◆ 憩い・潤い・リラックスのために確保すべき空間は、歩行者交通量や周辺の環境、土地利用等様々な要素により決まりますが、快適な空間はそれ自体が利用者を増加させる要因にもなります。
- ◆ 駅の出入口直近等の、歩行者の流動量が多くゲート機能が重要視される場所でも、現状程度の憩い空間を最低限確保します。
- ◆ 緑や椅子・テーブル等のファニチャーを設置するなど、周辺の環境に応じた憩いの空間を確保し、憩いの空間を整える設えとして、周囲の植栽や夏場の日陰等の要素にも留意します。

(3) 交流・にぎわい

渋谷駅中心地区の広場は誰もが自由に自分自身の場所として利用できることが重要であり、交流・にぎわい機能は、まちに付加価値をもたらす重要な機能です。

また、渋谷駅ならではの人の多さを活かした発信ができる空間とビジョンや屋外広告物を活かした発信できる設えを確保していきます。

考え方のポイント

- ◆ 各方面において期待される多様な活動の実現に必要な空間の確保とともに、地区全体では、交通規制を変更せず日常的なにぎわい創出ができる空間を確保します。
- ◆ 渋谷金王八幡宮例大祭や盆踊り等、交通規制を変更して車道も利用するイベントについては、日常的に必要な広場の議論とは別に、運用面での工夫等も含めて対応することが必要です。

(4) 情報発信

来街者の多い渋谷では、まちの中にある様々な目的地までの確に導く案内機能が重要です。

また、渋谷駅はその人の多さから、まちの様子がメディアを通して頻繁に発信されることが特徴です。また、昨今のインバウンド需要から、ハチ公像やスクランブル交差点といった観光スポットを訪れる観光客も多く、SNSなどを通して世界中に「SHIBUYA」が発信されています。

さらに、クリエイティブコンテンツやエンターテインメントの集積により、渋谷には個人が自由に表現し発信する風土が根付いており、新しいトレンドや文化が生まれ続けていることも特徴です。

考え方のポイント

- ◆ 広場には情報を「キャッチできる機能」と情報を「発信できる機能」の両方が重要です。
- ◆ 渋谷らしさを形成する大きな要素となるため、情報を発信・キャッチするための設えの工夫や施設を考えておくことが必要となります。

(5) 防災（非常時）

渋谷駅周辺には来街者が多く、災害時に多くの帰宅困難者が発生することが想定されています。

『渋谷駅周辺地域都市再生安全確保計画 Ver2.4』（2024年3月）（以下「安全確保計画」という）では、「駅周辺や路上の混雑による混乱を回避するため、滞留者をあらかじめ定められた一時退避場所に誘導する」、「渋谷駅周辺の混乱を避けるために駅から離れる方向に誘導する」とされています。

考え方のポイント

- ◆ 非常時に必要な機能ですが、災害時に対応できる備えは、日常的な機能としても必須です。
- ◆ 安全確保計画を踏まえ、的確な滞留者誘導等に対応できるように情報発信機能を備えることが重要となります。
- ◆ 一時退避に利用できる空地は、特に駅近傍では不足が見込まれています。



① 背景・目的

② 本ビジョンの位置づけ・主な内容・対象

③ 渋谷の広場を取り巻く環境

④ 渋谷駅中心地区の広場ビジョン（将来像）

⑤ 広場が担う機能・管理運営の考え方

⑥ 広場ビジョンの表現に向けて

5.2 広場の管理・運営の考え方

(1) 管理・運営に関する考え方

将来像を実現するためには、広場を整備するだけでなく、使いこなしていくことが重要です。そのために、たくさんの人にとって使いやすい広場となるように、また、渋谷らしい広場の使い方ができるように、さらには、まちの価値を高めるような広場の使い方ができるように、持続可能な管理・運営の仕組みを作っていくことが大切です。

考え方のポイント

- ◆ 渋谷駅中心地区では、官・民の枠組みを超えて、使いやすく、かつ使われやすい広場とするために、点在する広場空間を一体的に管理・運営していくことが重要です。
- ◆ 管理者、運営者が異なる広場があるため、各広場の適正に応じたルール of 策定と、管理・運営を行う組織が重要です。

管理運営のルールと広場の条件について

- 点在する広場空間を一体的に管理・運営していくためには、広場の管理運営ルールが必要です。公共のための空間として、安全で快適に、適正な利用が促進されるためのルールであることは、全ての広場に共通した前提条件となります。
- ルールの策定に際しては、「広場の位置づけ」「広場に期待される機能」「方面の特性」等に応じた適正なルールにすることが求められます。また、各地域における管理者や地域の組織の状況に応じたルールが必要となります。
- ルールの対象範囲としては、以下が想定されます。これらの組み合わせも含めて、ルールに基づき適切な管理を行うことが望まれます。

① 中心地区全体で策定

② 方面の特性を活かした範囲や複数の広場を束ねて策定

③ 施設固有の特性を活かして個別のルール(条例等)を策定

- 公共空間である「道路区域」の広場については、現在の利用状況を鑑みて、より適正な利用の促進に向けて管理条例等の策定が必要です。
- 「民地内の空間」や「道路占用物」については、都市計画の位置づけや、公共施設を占有している施設としての認識の下、周辺のビジョンや壁面等を含めた広場空間全体としての適正な運用・利用方法のルールが必要です。
- 「情報共有や共通ルール」により、公共施設でも民間管理の広場でも、エリアマネジメント団体等を通じて、地域における活用を広げることが必要です。
- エリアマネジメント団体等の関係者の責任の明確化や、ルール運用や変更等に対応・調整できる仕組みや、地元組織が参加しやすいようなルールであることも必要です。
- 「特に重要な広場」については、関係者で様々な視点から議論を行い、エリアマネジメント団体等による、適正な利用、管理運営、収益の活用等のルールが必要です。

(2) 情報共有・連携に関する考え方

考え方のポイント

- ◆ 管理者、運営者が異なる広場間においても、それぞれの広場でのにぎわいや交流等が、まちとしてのにぎわい等の価値につながるように、エリアマネジメント団体等が主体となり、広場間での連携や情報共有を進めることが重要です。
- ◆ 具体的には、各立場により、必要とされる情報や連携の内容が異なります。

広場管理者〔行政、事業者〕	各広場の管理と広場間の連携、手続き等
広場イベント主催者〔企画会社等〕	利用申請手続きや関係機関調整窓口の一元化等
広場利用者〔一般ユーザー〕	各広場のイベント情報や混雑状況等
- ◆ これら情報をWEBサイトやSNS等を活用し一元的に発信する等が考えられます。

① 広場利用の手続きの窓口一元化など（行政、管理者）

- 情報の窓口としてエリアマネジメント団体等が、広場の利用状況やイベント情報等を集約・一元管理することにより、関係者に情報を展開する程度のゆるやかな連携を図ります。
 - 広場管理者・道路管理者は、全体像を把握でき、管理運営や手続き等がスムーズ
 - 交通管理者は、交通規制や大量の歩行者の集中に対する警備体制について事前に共有でき、さらに、道路使用等の手続きも一元管理により手続き負担が軽減。なお、交通管理者との調整・確認は必要
 - 日常の利用と併せて、災害時における危機管理対策としても広場の利用状況の把握しておくことで、的確な対策を実施するための基礎情報を管理することが可能

② 広場のイベント企画利用に関する情報や手続き等の一元化など（イベント主催者など）

- イベント企画会社や地元団体等に対して、広場利用に関するイベント企画・実施・運営等の手続き（利用申請など）や情報の窓口を一元化・集約します。
 - イベント主催者は、開催したいイベント内容に合わせた規模や設えのある広場の予約や、管理者の異なる広場での、イベント開催や広場間の連携が容易になり、渋谷の広場空間を活用した賑わい創出を促進

③ 来街者に向けたイベント等の情報の一元化・発信など（利用者）

- 広場に関するイベント情報や混雑状況等を一元化・集約し、発信します。
 - 来街者は、情報の一元化により、渋谷の広場空間の利用を促進

④ 分かりやすい案内・情報提供が出来る仕組みづくり

- 渋谷駅周辺における広場空間の情報（場所や施設情報など）を提供します。
 - 官民の情報の集約管理により、利用が活発化し、渋谷地区の魅力創出を促進
 - イベント主催者は、イベント開催がよりスムーズ
 - 来街者は、渋谷駅周辺の広場をより利用を促進
 - 「見つける・創る・つながる を渋谷から」をコンセプトとするSHIBUYA CREATIVE JUNCTION(次頁)との連携

① 背景・目的

② 本ビジョンの位置づけ・主な内容・対象

③ 渋谷の広場を取り巻く環境

④ 渋谷駅中心地区の広場ビジョン（将来像）

⑤ 広場が担う機能・管理運営の考え方

⑥ 広場ビジョンの実現に向けて

「SHIBUYA CREATIVE JUNCTION」

(シブヤ クリエイティブ ジャンクション)

- ◆ 「SHIBUYA CREATIVE JUNCTION」は、再開発が進む渋谷駅周辺を中心に、渋谷区内でイベント・アート・音楽など多様な活動や表現の場になり得る、広場・空地・公園・イベントスペースなどのパブリックスペースを一元化したスペース情報サイトです。
「どのような空間が存在するのか分からない」、「利用したいけど誰に相談したらいいか分からない」、「どんなイベントが行われる(行われた)のか知りたい」といった課題を解消することで、新たな文化の創造と地域の活性化を目指します。
- ◆ 渋谷区では、官民連携によるデータ活用の一環として、令和5年度より多様なデータを分野横断的に収集・整理し提供する「データ連携基盤(以下、都市OS)」の整備を進めており、「SHIBUYA CREATIVE JUNCTION」は、この都市OSを活用した最初の取り組みです。



<https://creative-junction.city.shibuya.tokyo.jp>



● 道路や広場などの公共空間を含む 渋谷駅周辺189件のスペース情報を見える化(サイト公開時点)

スペースの種類やエリア、広さなどの条件で絞り込み、希望に沿ったスペースを見つけることが可能です。詳細画面では、住所や面積、利用時間、管理者情報を確認でき、利用できるスペースについては、簡単に問い合わせや申請に進むことができます。

● スペース活用事例とイベント・アクティビティ情報の発信

今後のイベント・アクティビティ情報についても確認することができます。また、スペース管理者やイベント実施者もこれらの情報の掲載申請を行うことができます。

● 生成AIによる日英翻訳機能の搭載

生成AIを活用した自動翻訳機能を備えているため、スペース情報やイベントなどについて、英語での情報発信を行うことが可能です。

① 背景・目的

② 本ビジョンの位置づけ・主な内容・対象

③ 渋谷の広場を取り巻く環境

④ 渋谷駅中心地区の広場ビジョン(将来像)

⑤ 広場が担う機能・管理運営の考え方

⑥ 広場ビジョンの実現に向けて

⑥ 広場ビジョンの実現に向けて

⑥ 広場ビジョンの実現に向けて

6.1 方面別の機能配置の方針

各方面の特性と地元や利用者の意見等より、方面別の機能配置等の方針を整理します。

(1) 北西方面

方面別方針の考え方

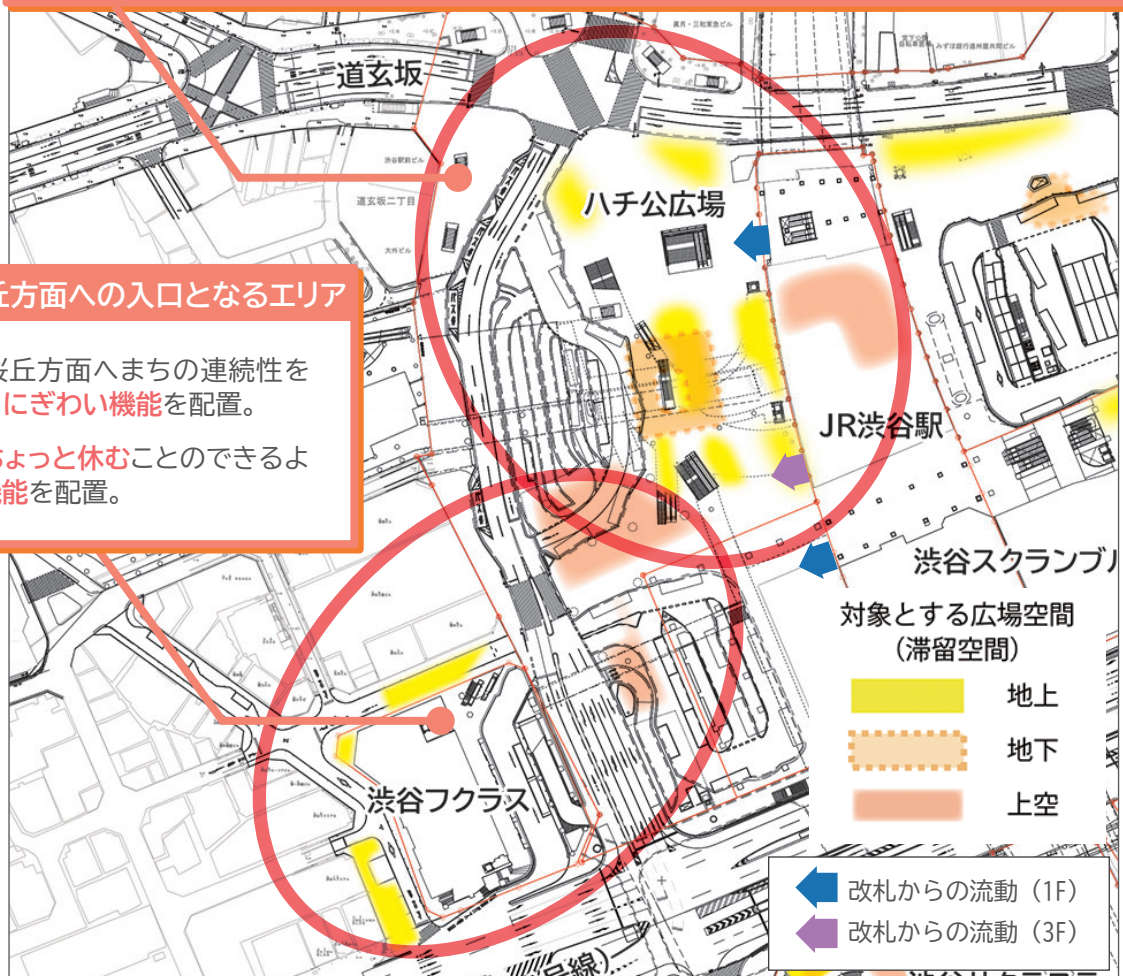
- ◆ 交通量が多いため、安全を確保できる**ゲート(待合せ)**機能が非常に重要
- ◆ まちを巡り歩く来街者が短い時間で休憩できる**憩い**機能が特に求められる
- ◆ まちの顔になる方面であり、世界への発信力を持った**にぎわい**機能が求められる
- ◆ 人の多さを活かし、まちの案内など**情報**をキャッチできる機能と**発信**ができる機能が重要
- ◆ 非常時における人の集中が想定され、広域避難に関する情報提供などが必要

ハチ公広場やスクランブル交差点など、渋谷の顔となるエリア

- ・駅とまちを繋ぎ、来街者を迎え入れる**まちの玄関**となる**待合せ**機能や**案内機能**を配置。
- ・ハチ公広場、中央棟4階広場(仮称)は、渋谷にとって**非常に重要な空間**であり、**見る・見られるの関係**を意識して整備すべき空間。
- ・ハチ公広場+スクランブル交差点とその周囲を囲むビジョンや壁面等によりまとまった空間は、その魅力を**世界に発信**できる空間。
- ・このエリアは、**特に重要な広場**が集中しており、安心・安全に適正な利用促進を図るルールが必要。

中央街や桜丘方面への入口となるエリア

- ・中央街や桜丘方面へまちの連続性を演出できる**にぎわい機能**を配置。
- ・来街者が**ちょっと休む**ことのできるような**憩い機能**を配置。



(2) 北東方面

方面別方針の考え方

- ◆ 駅とまちの出入口となる広場には **ゲート(待合せ)** 機能が不可欠
- ◆ 駅直近にはまちを楽しむ歩行者向けのちょっとした休憩ができる **憩い** 機能、まちとの接点となる広場には通勤通学者向けの飲食などを伴う休憩ができる **憩い** 機能が求められる
- ◆ **ゲート(待合せ)**、**憩い・潤い・リラックス**、**交流・にぎわい** 機能を満たす広場をバランスよく配置することが重要
- ◆ 非常時における人の集中が想定され、広域避難に関する情報提供などが必要

宮益方面、青山方面への来街者や通勤通学者など様々な人が利用するエリア

- ・地上と地下に待合せ機能を配置。
- ・待合せ、憩い、にぎわい機能を **バランスよく** 配置。
- ・北西方面に次いで交通量が多いため、**充実した案内機能** を配置。
- ・**東口広場** (地上・地下) は、渋谷のまちのエントランスとして **非常に重要な空間**。
- ・中央棟先端部や宮益坂等との **まちとのつながり** や **見る・見られるの関係** を意識した空間。
- ・このエリアは、**特に重要な広場** が集中しており、安心・安全に適正な利用促進を図るルールが必要。



① 背景・目的

② 本ビジョンの位置づけ・主な内容・対象

③ 渋谷の広場を取り巻く環境

④ 渋谷駅中心地区の広場ビジョン(将来像)

⑤ 広場が担う機能・管理運営の考え方

⑥ 広場ビジョンの実現に向けて

(3) 南西方面

方面別方針の考え方

- ◆ 駅とまちの出入口となる広場には **ゲート(待合せ)** 機能が求められるが、北側の広場に比べ交通量が少ない
- ◆ 近隣の人たちが日常的に利用できることにより、地域のコミュニティを育むような **憩い、交流・にぎわい** 機能が重要
- ◆ 非常時における人の集中が想定され、広域避難の情報提供など **防災** 機能が必要
- ◆ 民地内の広場空間が多いが、周辺地域と一体となり、まちの安全・安心に資する適正な利用促進を図るルールが必要

① 背景・目的

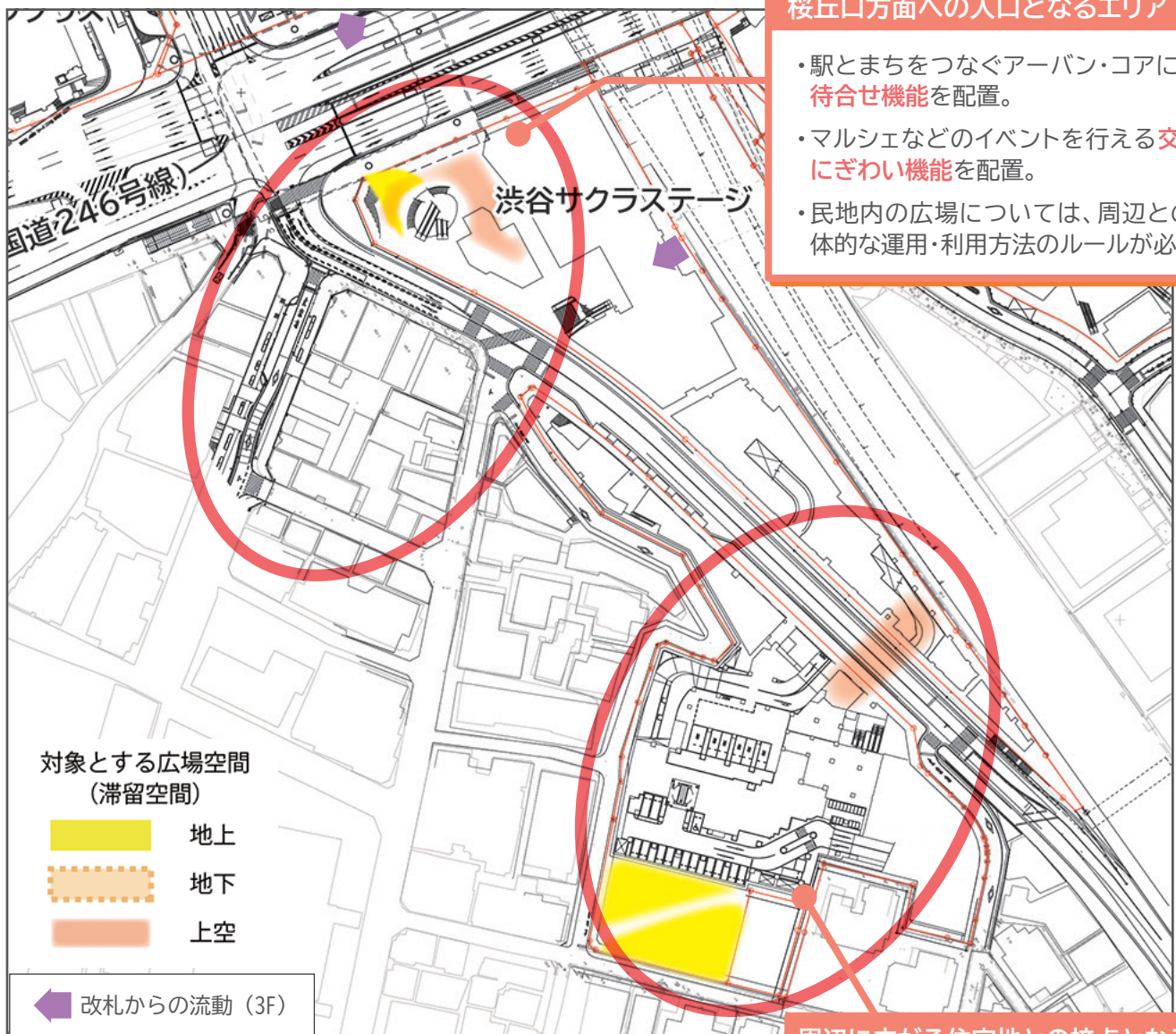
② 本ビジョンの位置づけ・主な内容・対象

③ 渋谷の広場を取り巻く環境

④ 渋谷駅中心地区の広場ビジョン(将来像)

⑤ 広場が担う機能・管理運営の考え方

⑥ 広場ビジョンの実現に向けて



桜丘口方面への入口となるエリア

- ・駅とまちをつなぐアーバン・コアには、**待合せ機能**を配置。
- ・マルシェなどのイベントを行える **交流・にぎわい機能**を配置。
- ・民地内の広場については、周辺との一体的な運用・利用方法のルールが必要。

周辺に広がる住宅地との接点となるエリア

- ・住民が日常的に利用し、地域の **コミュニティ**を育むような **憩い、交流、にぎわい**の拠点となる機能を配置。
- ・民地内の広場については、周辺との一体的な運用・利用方法のルールが必要。

(4) 南東方面

方面別方針の考え方

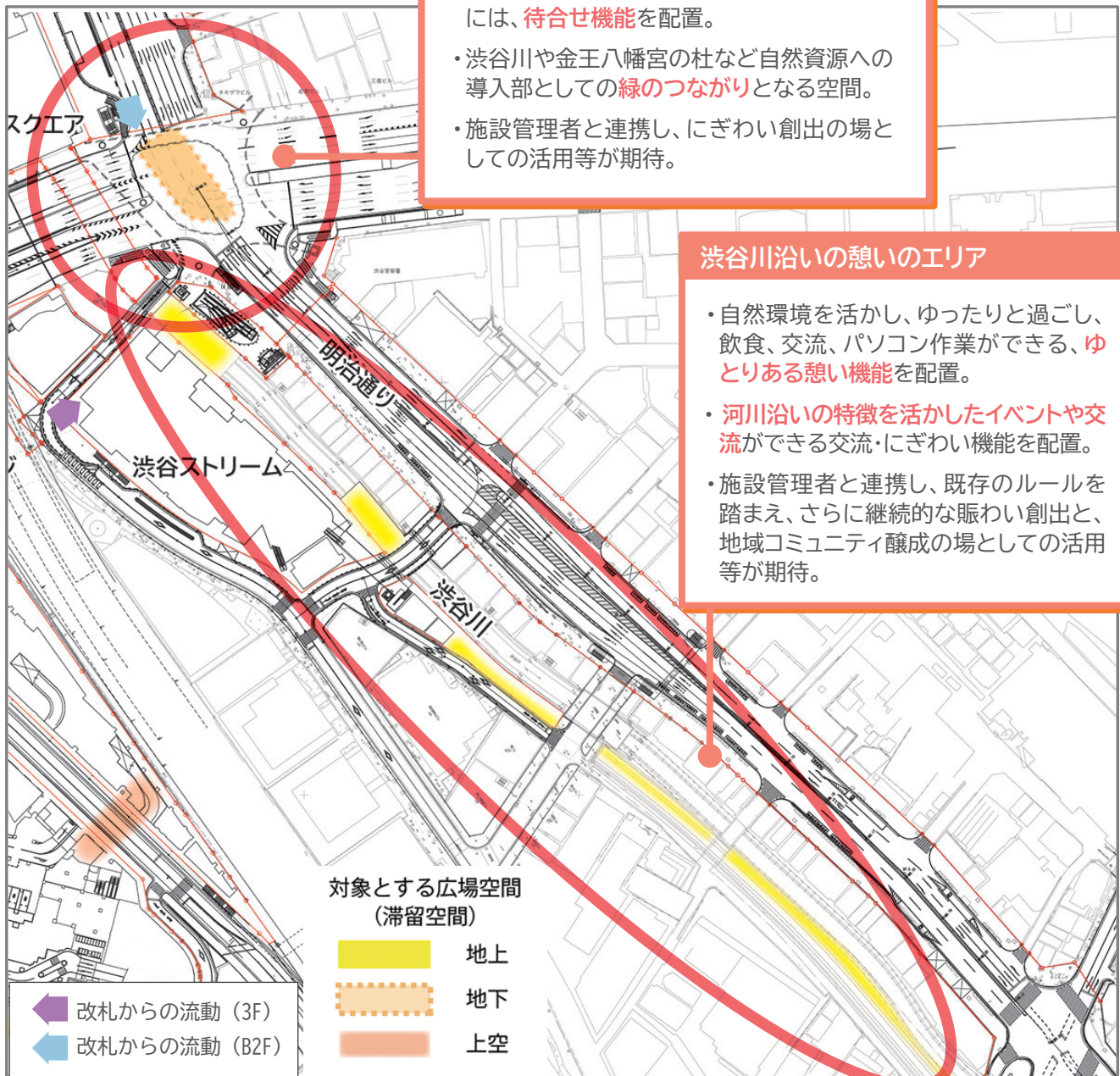
- ◆ 駅とまちの出入口となる広場には **ゲート(待合せ)**機能が求められるが、北側の広場に比べ交通量が少ない
- ◆ 渋谷川や金王八幡宮の杜といった自然豊かな環境を活かし、パソコン作業をしたり、ランチをしたりするための **憩い**機能が重要
- ◆ にぎわい創出のイベントや周辺の異業種間の交流により新たなイノベーションを起こすような **交流・にぎわい**機能が重要
- ◆ 非常時における人の集中が想定され、広域避難に関する情報提供などが必要

渋谷三丁目方面への入口となるエリア

- ・国道246号の国道地下空間や稲荷橋広場には、**待合せ機能**を配置。
- ・渋谷川や金王八幡宮の杜など自然資源への導入部としての **緑のつながり**となる空間。
- ・施設管理者と連携し、にぎわい創出の場としての活用等が期待。

渋谷川沿いの憩いのエリア

- ・自然環境を活かし、ゆったりと過ごし、飲食、交流、パソコン作業ができる、**ゆとりある憩い機能**を配置。
- ・河川沿いの特徴を活かしたイベントや交流ができる **交流・にぎわい機能**を配置。
- ・施設管理者と連携し、既存のルールを踏まえ、さらに継続的な賑わい創出と、地域コミュニティ醸成の場としての活用等が期待。



① 背景・目的

② 本ビジョンの位置づけ・主な内容・対象

③ 渋谷の広場を取り巻く環境

④ 渋谷駅中心地区の広場ビジョン(将来像)

⑤ 広場が担う機能・管理運営の考え方

⑥ 広場ビジョンの実現に向けて

6.2 方面別方針の実現に向けて

① 背景・目的

基本的な
考え方

渋谷駅中心地区の広場空間を、より良い空間として実現していくために、機能配置や設え、管理運営等の考え方を整理します。

(1) 機能配置の誘導方針

適正な機能の確保に向けた既存機能の転換や新たな開発における必要機能の確保

渋谷駅周辺の各方面で必要とされる機能や規模は、方面特性に応じて異なるため、機能の転換、新たな開発における整備により、適正な機能の確保を目指します。

- 現時点で整備されている広場空間等においては、現機能を効率的に利用するとともに、将来的に必要な機能への転換も含めた効率的な広場空間の利用を促進
- 新たな開発においては、方面特性を踏まえ、必要な機能と規模を想定し、適正な機能の確保や配置、公開空地等を含めた重層的・立体的な広場空間整備等を促進

日常的な利用に向けた機能の優先配置

待合せ空間や憩い空間等の機能を配置する際、歩行者交通量が多い広場空間においては、歩行者の主要な動線を阻害しないことが最優先である。また、各方面の特性に応じた機能を優先的に配置することや、限られた空間の中を有効に利用するために、複数の機能として利用できる空間の作り方も必要です。

- 特に歩行者が多い方面においては、「ゲート(待合せ)機能」を優先的に確保し、「憩い・潤い・リラックス機能」、「交流・にぎわい機能」の順に確保することを基本としつつ、各方面の特性を踏まえた柔軟な対応も可能
- 限られた空間の中で複数の機能を重複して利用するためには、日常利用としての憩い・潤い・リラックス空間における植栽やベンチ等を、少し休憩できるような空間だけでなく、待合せや、イベント時の利用にも対応できるような形状等や可動式等も必要

設え等の工夫による機能の拡充

広場空間の利用を促進するためには、面積的な確保だけでなく、広場空間に期待される機能をより強化するために、様々な広場内の設え等にも工夫を促します。

- 渋谷ならではの多層での配置を活かした「見る・見られるの関係」の確保、近接する広場間の空間的なつながり、広場とその周辺の施設との関係を重視した設えの工夫
- 目印やベンチ、植栽、ステージ等、各広場における様々な活動に必要な設備、物理的に面積確保が困難な場所における効率的な広場の利用に対応できる設え等の工夫(階段の観客席利用、可動式のステージやテーブル等)、多目的に利用しやすいオープンなスペース等が必要
- 快適な空間であるとともに、死角となるような場所を作らない等の防犯面にも配慮した安全と安心の設えが必要

災害時を想定した機能の確保

広場空間は、日常的な利用が基本となりますが、災害発生時には、多くの帰宅困難者等の発生も予想され、広場空間での一時的な待機や、情報収集の拠点的な役割を担うことが想定されます。

- 「安全確保計画」に基づき、より多くの人の安全を守るために、滞留者を的確に案内誘導するための情報提供機能の確保
- 非常時の状況も想定し、防災無線や非常用照明・電源、Wi-Fi設備の確保や、広場空間の表層や段差、ベンチやテーブル等の設えについても留意が必要

② 本ビジョンの位置づけ・主な内容・対象

③ 渋谷の広場を取り巻く環境

④ 渋谷駅中心地区の広場ビジョン(将来像)

⑤ 広場が担う機能・管理運営の考え方

⑥ 広場ビジョンの実現に向けて

(2) 管理運営の誘導方策

管理・運営・運用のノウハウの蓄積

地元や事業者などから広く意見を聞き、広場を使う担い手を育てつつ、より使いやすい広場としていくために、広場整備のプロセスマネジメントを大切にします。

併せて、個別の広場計画・設計を行う際には、渋谷駅中心地区の広場計画全体にフィードバックする必要があるものを適宜留意事項として共有できる仕組みの構築、運用が必要です。

- 広場情報やイベント管理と併せて、広場空間の管理・運営・運用に関する情報の蓄積
- 既存イベントにおける課題・アンケート結果等のストックや、フィードバック
- 利用者ニーズを随時くみ取る仕組みとして、社会実験やアンケートなどを渋谷駅周辺全体で共有
- 新たに作る仕組みを作る場合には、その仕組みを継続的に実施できるかどうかを検証するための試行期間等を設定 等

官民連携による効果的な仕組みづくり

渋谷駅周辺の広場空間は、公共空間、公共空間内の占用施設、民間施設内の公共的空間等があるため、広場の管理運営にあたっては、官・民が連携することにより、効率的かつ効果的により良い広場を維持していくことを目指します。

広場空間の管理・運営・運用等の情報を蓄積していく仕組みとして、官・民が連携した仕組みが必要です。

- エリアマネジメント団体や行政、地元等の連携した仕組みのためのルール作り
- 官・民の役割分担が効果的となり、より良い広場を継続するためのルール作り 等

新たな技術の導入による広場の効率的な管理・運営

近年の技術の進歩は目覚ましく、広場空間の維持管理や設置するテーブル等の設えについても、新たな技術を活用した維持・管理・運営のツールの検討や導入に向けた働きかけが必要です。

- テイクアウトの注文や情報発信に対応できるように、テーブル型デジタルサイネージに、タッチ端末機能を搭載したテーブル等を広場空間に設置
- ロボットを導入した自動清掃などによる維持管理の効率化
- 補修箇所や気になる箇所などを利用者(専用のアプリなど)やロボット等が発見して登録する仕組みなどを導入したスマート広場の実現 等

① 背景・目的

② 本ビジョンの位置づけ・主な内容・対象

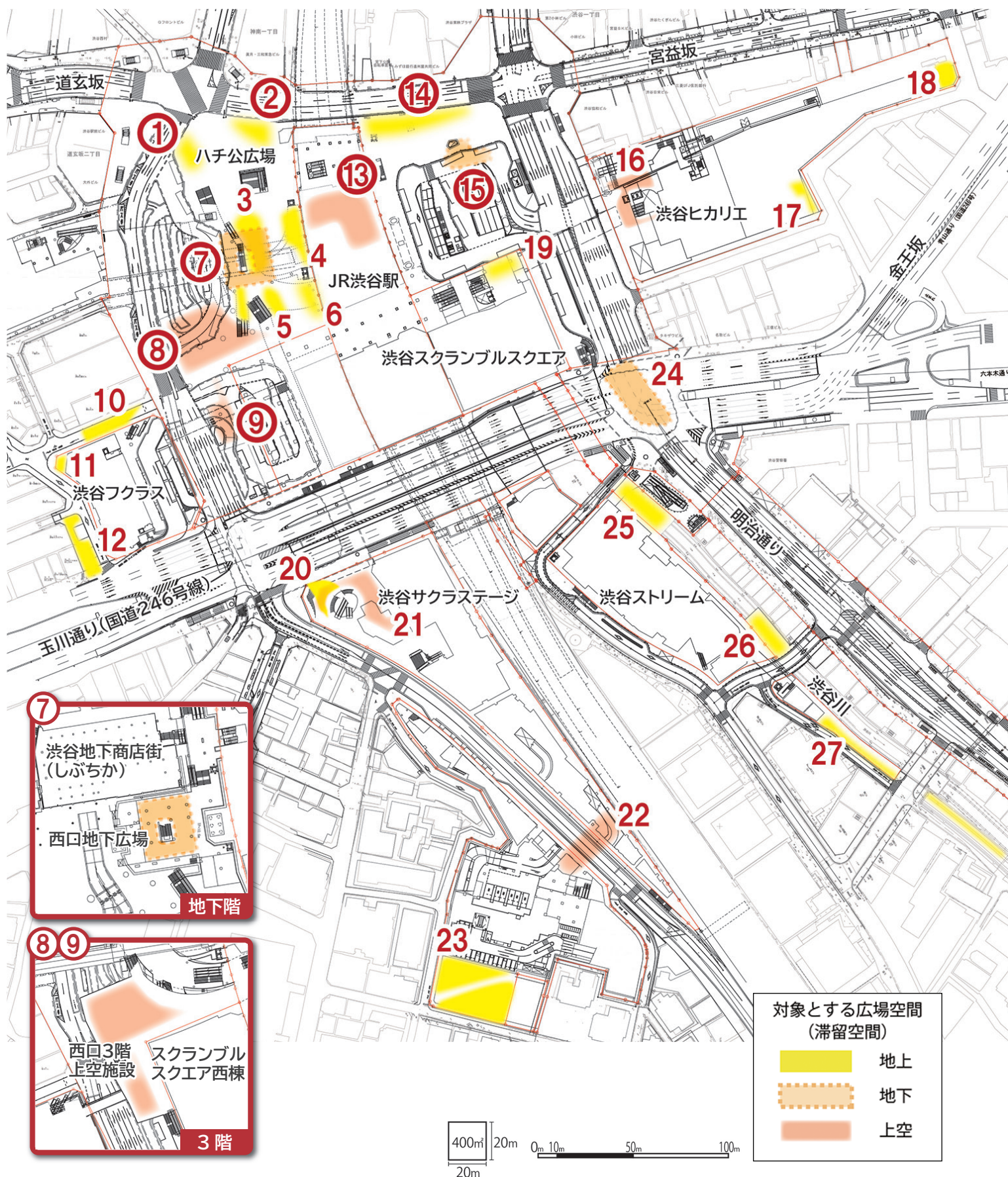
③ 渋谷の広場を取り巻く環境

④ 渋谷駅中心地区の広場ビジョン(将来像)

⑤ 広場が担う機能・管理運営の考え方

⑥ 広場ビジョンの実現に向けて

〈参考〉対象とする広場空間





方面	番号	名称	広さ(m ²)※	階層	特に重要な広場
北西方面	1	ハチ公広場	200	地上	○
	2		350	地上	○
	3	西口広場	350	地上	
	4		250	地上	
	5		200	地上	
	6		200	地上	
	7	西口地下広場	750	地下	○
	8	西口3階上空施設（仮称）	1,250	上空	○
	9		500	上空	○
	10	広場空間（渋谷中央街）	200	地上	
	11	渋谷フクラス広場	50	地上	
	12	広場空間（渋谷フクラス西側）	250	地上	
	13	中央棟4階広場（仮称）	900	上空	○
北東方面	14	東口広場	450	地上	○
	15	東口地下広場	350	地下	○
	16	渋谷ヒカリエ アーバン・コア	400	上空	
	17	渋谷ヒカリエ 2階広場	100	地上	
	18	渋谷ヒカリエ 3階広場	100	地上	
	19	渋谷スクランブルスクエア アーバン・コアスペース	100	地上	
南西方面	20	渋谷サクラステージ アーバン・コア	120	地上	
	21		500	上空	
	22	渋谷サクラステージ にぎわいSTAGE	550	上空	
	23	渋谷サクラステージ はぐくみステージ	800	地上	
南東方面	24	国道地下空間	800	地下	
	25	稲荷橋広場	300	地上	
	26	金王橋広場	200	地上	
	27	渋谷リバーストリート第一区間	150	地上	
	28	渋谷リバーストリート第二区間	450	地上	

※歩行者が通行する空間を除いた面積



そこで人は、スクランブルる。

渋谷区ロゴ

渋谷駅中心地区広場ビジョン〈案〉

発行：渋谷区まちづくり推進部渋谷駅中心五街区課 TEL：03-3463-2945

渋谷区ホームページ <https://www.city.shibuya.tokyo.jp/>

本ビジョンで使用している地図は、東京都知事の承認を受けて、東京都縮尺 2,500 分の 1 地形図を利用して作成したものである。(承認番号) 7都市基交測第 183 号